



## 課題研究パート一 「個の二ーズ」応用

～要望を叶える為に～



## まおは行動から

二月八日、長崎大学の中部講堂で「熊本復興ボランティアに対するくまもんのお礼参り」がありました。

ミニで紹介した草野編集部の復興ボランティアバスに参加した方が集まりました。夏に参加した際、汗をたらたら流して頑張った活動の先に大人気の「ゆるきゃら」に会える機会があるとは思つてもいませんでした。

わけでは無いので、支援学校の先生方と相談しながら器具の色を統一したり、支援学校の生徒さんが怖がる金属の部分を受け入れてもらえるようになつた工夫などといつてもいい。期一年間で三年生の皆さんはどうなんな結果に辿りつくことになったのでしようか。取材をしていくうちに感じたのは「必要としている人に適切な物を届けること」個のニーズに応えることによって困っている人の支えになることができました。また、感謝の言葉から得る達成感は大きいもので、とても貴重な体験となりました。



※ごうせんごでした



▲見よっ！この躍動感！

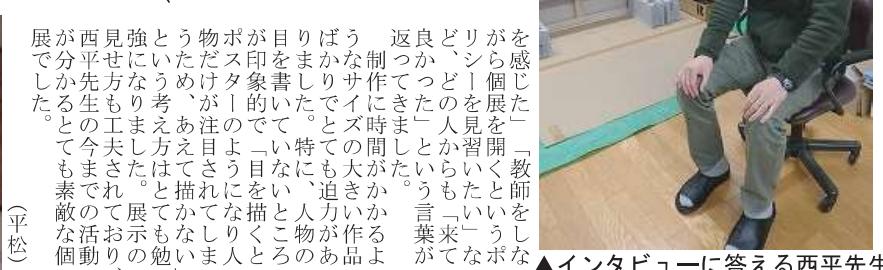
番外編  
卓球道

卓球の魅力

卓球といえば「躍動感」がない」というイメージが、卓球道では特別編で卓球道に躍動感がある。このように瞬間もあります。卓球でも私を見ていてそんなに面白くないでよ。私もよく思いますが卓球というスポーツに魅力を感じるのは、ラバーラケット、その組み合わせによって戦術が大きく変わるものからです。これはスポーツにあまりないのではないかと思うからです。卓球道を見ても、卓球道を見ることはあればこのことを頭において見てみてはどうう。(山下)



▶作品に見入る人たち



▲インタビューに答える西平先生



百四十五号と並行しての制作となつた今号。もうこれから三年生の手を借りずに一、二年生の力で作つていかなければなりません。コナーの引き継ぎなどがあり、不慣れな点などもあると思ついますが新聞部一同頑張っていきます。

三四年生の先輩方は高校生活最後のテストでは残りわずかとなつてしましました。聞部の先輩方も以前に比べ、部室に来る日数も少しづつ減つてきています。皆さんそれが忙れ課題研究や学校などもあり、やはり別の理由ですね。卒業しても遊びに来てくださいとのことです。でもそんな気持ちで負けず、三年生の分まで頑張っていくとします。(草野)

一年生な☆日々